

また、「中央突堤、第1・第2・第3突堤をはじめ、大阪港全体が武器弾薬はもとより、兵員・食料・軍馬などアジア侵略の出撃兵站地となっていた」と話されました。

他にも、天保山公園（坂本龍馬とお竜さんの新婚旅行出発の地）・築港大潮湯跡・大阪捕虜収容所など案内していただきました。



最後に、宮本さんから、「案内人として50年余り、「反戦平和」という文言を口にし、またその運動をやってきたつもりです。しかし、広島や長崎の平和記念公園を訪れたことはあっても、自らの生活の基盤であり、人生の大半を過ごしてきた地元、大阪港については、まったくと言っていいほど、知らないことが多い。私は第一線をひいたことで時間ができたので、全港湾のある天保山地区を少し調べてみました。今後若い方がたにもっと調査していただきたいと思います。地元の成り立ち・大阪港の歴史を理解し、先輩方の苦労をもっと分かち合っていただきたい。戦争の出撃拠点となることも被災地となることも拒否して、平和な港を構築していただければ幸いです。明日からはあなたが案内人です。」と参加者に話されました。

12時頃、大阪港湾労働会館に戻り、陣内教宣部長の閉会あいさつで終わりました。猛暑の中、参加者の皆さん、そしてなにより、案内人の宮本さん、お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

◇

今回のフィールドワークに参加して、天保山周辺をあらためて探訪してみて、まだ知らない所、案内していただいて分かったこと、明治時代の建物がいまだに残っていることなど新発見がたくさんありました。また、災害モニュメント、戦争時の大阪港の軍事利用など、まだ知らない事がたくさんあり大変勉強になりました。

そして、8月9日は長崎に原爆投下された日です。核兵器による唯一の被爆国として、広島、長崎の悲劇を21世紀に再び繰り返さないためにも、親近者や地域でも戦争体験者が少なくなっている中で、私たちが戦争や平和についてどのようにして語り継いでいくのかが、これからの課題だと思います。教宣部としても、後世に戦争の愚かな歴史を風化させないよう、フィールドワークなどの学習会、名画鑑賞会を積極的に開催していかなければならないと思いました。

(執行部 竹山)

—— 参加者感想② ——

しょうおうさつらい
「彰往察来」を実感

大阪支部は国際連帯・反戦・反差別など幅広い労働運動を展

開していますが、地元の大阪港エリアの歴史を学ぶ機会が必要ではないかと考え、8月9日（日）に教宣部主催で「大阪港フィールドワーク」を開催し、宮本敏幸さん（元大阪港支部執行委員長）を講師に迎え総勢16名が大阪港の歴史を学びました。

住友南岸・赤レンガ倉庫、中央突堤、獣魂碑や陸軍省糧秣支廠（りょうまつしょう）跡では先の戦時下で大阪港が前線戦闘地の後方支援を担う出撃兵站地（へいたんち）であったことがわかりました。

大阪港の近代化に貢献した西村捨三（元彦根藩藩士）翁の説明では1609年の島津兵による琉球制圧から1895年の尖閣諸島日本領編入の流れを解説していただき、また、大阪市の市章のもととなった濡標（みおつくし）についてその由来を勉強しました。



大阪中国人強制連行受難者追悼実行委員会が作成した日中友好の碑「彰往察来」は、「過去を明らかにして未来を察する、つまり歴史を鑑（かがみ）として未来に向かおう」という意味で、今回のフィールドワークが「故きを温ね新しきを知る（温故知新）」の良い機会となりました。

(教宣部 中野)



第342号 2020年9月18日



発行
大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 國分仁昭



支部第44回定期大会に向けて

副委員長

陣内恒治

大阪支部第44回定期大会が、10月10日（土）に、大阪港福祉第一センターで開催されます。

今年度は感染防止のため来賓や傍聴者の参加はご遠慮していただき、執行部、代議員のみで開催します。大会が成立するように、議事運営への協力をお願いします。

大会に向けて第1に訴えたいことは経済危機、雇用問題です。コロナ禍の影響で政府の雇用統計はどれも急激に悪化しています。働く人たちが職を失う前に国や市が率先して対策の強化が必要です。また、コロナ禍を利用して解雇や雇い止めをしている企業もあります。労組側も経営状況など把握しなければいけません。

第2に仲間の仕事・くらし・生命を守るための団結です。争議中の分会や賃金の減少で生活が苦しくなった組合員を守るために1つは物販カンパや支援の



強化に協力していただく。企業が雇用調整助成金制度による雇用の維持、安定。雇用のセーフティーネットの強化、労働相談体制をより強化しなければいけません。

第3に大会で活発な質疑応答

をお願いしたい。政治、経済、雇用、地域共闘、国際共闘、反戦行動など、さまざまな質疑応答が活発に出ることで、大会の内容がより濃密になります。大

阪支部の原点は「みんなでつくる労働組合」で、全員が当事者意識をもって取り組んで、組織拡大・強化につなげていきたいと思っています。

当日はマスク着用、近距離での会話を避ける、ソー

シャルディスタンスを確保するなど感染予防対策にご理解いただき、大会の成立だけを目標でなく、大阪支部に結集する仲間が納得できる大会にしたいと思いますのでよろしくお願いします。